

# (一社) 日本フルードパワーシステム学会 会誌執筆要綱

昭和57年12月5日制定

(途中略)

平成22年 7月28日改訂

平成25年 2月20日改訂

平成26年 4月24日改訂

## 1. 執筆上の一般的注意

執筆に際しては、以下の点を考慮の上、著者の主張が読者に理解できるよう、十分配慮して下さい。

### (1) オリジナリティ

原稿は、著者の原著であり、一般に公表されている刊行物に未発表のものであることが必要です。もちろん、内容の一部が既発表のこともあり得ますが、この場合には原稿がそれなりのオリジナリティをもつよう注意を払って下さい。

### (2) 引用

他人の著作権に属する資料(報告・データ・図表など)を引用する場合は、著者の責任においてその許可を得た上で、必ずその出所を原稿中に明示して下さい。

### (3) 構成

本文の構成は、「まえがき」、「主部」、「むすび」、「文献」のような順になるのが基本ですが、著者は内容に応じて適当な構成をとっても構いません。

(4) 原稿作成に当たって十分**推敲**して下さい。

(校正の際、誤植以外は訂正できません)。

(5) 会誌に掲載された記事の**著作権**は、本学会に所属します。

### (6) 規程ページ数の遵守

会誌執筆規程中の表1に記載した規程ページ数の遵守と共に、可能な限りページ数の節減にご協力下さい。

### (7) 空白紙面の削減

空白紙面の削減(撲滅)は、学会経費の節約上のみならず、読者サービスの視点からも重要な問題と考えます。記事の推敲、文字数の計数、図表や写真の割付などに留意の上、空白紙面の削減にご協力下さい。

### (8) 図表、写真は鮮明で見やすいものに

一見して不鮮明であったり、見づらい図表や写真を含む記事は、読者から敬遠され勝ちとなります。数度の複写を経たものや、図中の文字が読みづらい等の事例を減らすことにご協力下さい。

### (9) 社名・製品名・ロゴマークについて

会誌の中立性を確保する観点から、企業の広告的色彩が強い文言・表現・写真はお控え下さい。

- 原則として、社名はA社、B社等として下さい。
- 原則として、製品名はJISなどに規定された一般化された名称として下さい。
- 原則として、企業のロゴマークを前面に出した製品概観写真や図表等の掲載はご遠慮下さい。

d. ただし、以下のように記事として特に有用と考えられる場合は、社名、製品名を記載することができます。

- ① 技術史的な記述の中で、社名や製品名がないと記事そのものが意味を成さない場合。
- ② ケーススタディ的な記事で、実例としては極めて特異な技術や製品を記述する場合。
- ③ 記事分類「製品紹介」の記事の場合。ただし、内容は広告宣伝的な記事とせず、技術的資料を示すものとして下さい。

## 2. 表紙の書き方

所定の表紙に、記事分類、題目、著者名、連絡先、会員資格など必要事項を記入して下さい。表紙は学会よりワープロファイルsample-cover.doc (Word形式)が送付されます。

## 3. 原稿作成上の注意

(1) 原稿の**区切りと見出し**(章、節、項)の付け方

章	: 1.	2.
節	: 1.1	1.2
項	: 1.1.1	1.1.2

(2) **文体および用語**

文体はやさしい口語体とし、“である”調でお書き下さい。また常用漢字および新仮名使いを用いて下さい。ただし、外国語は片仮名または原語のままとします。

(3) **学術用語**

学術用語は、文部科学省、JIS または関連学会で定められたものに準拠して下さい。

(4) **単位**

原則として国際単位系(SI)を用いて下さい(JIS Z8203参照)。

(5) **引用・参考文献**

引用・参考文献は、引用箇所の右肩に小さく<sup>1)</sup>のように記入し、本文の末尾に次の形式で記載して下さい。

論文や学会誌などの場合：番号) 著者名：論文名、誌名、Vol.○、No.□、p.△-▲(発行年)

単行本の場合：番号) 著者名：書名、出版者、p.△-▲(発行年)

[記入例はサンプル原稿を参照して下さい]

(6) **脚注**

脚注は、本文の下に横線を引いて、その下に記入して下さい。記号は右肩に、\*、\*\*などを付けて下さい。

## (7) こまどり

本文は書き出しおよび改行後の書き出し部分を1こまあけます。また見出し番号の次も1こまあけます。そのほかはすべて左端から書き始めます。ピリオドは〔 〕、コンマは〔 , 〕とし1字分を占めます。

## (8) ページ数

原稿にはページ数を枠外右上隅に記入して下さい。

## 4. 原稿の仕上げ方

### 4. 1 全般的な事項

(1) ワードプロセッサを使用し、「3. 原稿作成上の注意」を参照して原稿を仕上げして下さい。具体的な原稿の仕上げ方は、4. 2および4. 3を参照して下さい。

(2) 電子出版号の場合を除き、提出された原稿は、そのままオフセット印刷に付されるものではありません。印刷に際し、割付が変更になる場合もありますので、ご了承下さい。ただし本文中の文字については、提出していただいた原稿ファイルを用いて写植されます。

(3) 図中の文字および記号の大きさ、線の太さ等については、印刷時の大きさを考慮して書いて下さい。印刷時の文字の大きさは、高さ2mmを標準とします。読者にとって見づらい文字を避けるため、標準またはそれ以上（特に添字などは大きめ）となるよう、ご配慮下さい。

### 4. 2 電子出版号以外の原稿の仕上げ方

#### A. 刷り上がり形式による仕上げ方

##### (1) 書式（ページ設定）

学会ホームページからワープロファイルsample-text.doc（Word形式）をダウンロードして、これに従い、刷り上がりの形式（図表・写真の割付、図表の貼付を含む）にして原稿を仕上げして下さい。サンプル原稿の書式は下記の通りです。

大きさ：A4縦

余白：上22mm，下20mm，左23mm，右18mm

表題：1段組

本文1ページ目：23字×39行×2段組

2ページ目以降：23字×48行×2段組

表題フォント：16pt

本文フォント：10pt

フォーマットが同じであれば他のワードプロセッサを用いても構いません。この場合において、提出する際には原稿ファイルをPDFファイルに変換していただく必要があります。

##### (2) 図、表、写真の大きさ

図、表、写真の大きさは、刷り上がり寸法と同じ大きさの横寸法を167mm、あるいは80mmで仕上げして下さい。非電子情報の図がある場合は、上質の白紙に、刷り上がり寸法の約2倍尺の大きさを墨書きトレースして下さい。本文中にはスペースを空け、レイアウトして下さい。ただし、鮮明な図であれば印刷や複写も可とします。

#### B. 刷り上がり形式によらない仕上げ方

##### (1) 本文（図表を除く）の書式（ページ設定）

本文の書式は、A4版縦、46字×48行×1段組（文字数：2208）

とします。余白、文字の大きさは特に指定しませんが、見やすくなるよう注意して下さい。図表などの割付・貼付をせずに、本文のみを書いて下さい。また本文の最後には著者紹介をお書き添え下さい。

##### (2) 図、表、写真の挿入箇所と大きさ

図、表、写真の大きさは、その横寸法を刷り上がりページの幅（167mm）、あるいは半幅（80mm）とするのを原則とします。図、表、写真などは、文中に挿入箇所を明示し、本文の最後にまとめて張り付けて下さい。非電子情報の図がある場合は、上質の白紙に、刷り上がり寸法の約2倍尺の大きさを墨書きトレースして下さい。ただし、鮮明な図であれば印刷や複写も可とします。

### 4. 3 電子出版号の原稿の仕上げ方

#### (1) 書式（ページ設定）

学会ホームページからワープロファイルE-sample-text.doc（Word形式）をダウンロードして、これに従い、一段組みで仕上げして下さい。一行の文字数、行間、フォントなどは、原則として変更しないで下さい。

#### (2) 図、表、写真の挿入箇所と大きさ

図、表、写真の大きさは、横寸法を167mmとして、一段組みで仕上げして下さい。ホームページ上に掲載する関係上、文章と図表を別ウインドウで表示するため、これらを原稿の最後にまとめて下さい。

## 5. 数式基準

### (1) 数学記号・量記号・変数

数学記号、量記号および変数の記号は**イタリック体（斜体）**とし、なるべくJIS（Z8201、Z8202参照）などで定められたものを使用して下さい。

### (2) 単位・演算記号

単位、演算を表す記号は**立体**（ローマン）を指定します。

### (3) 分数式

分数式は原則として $\frac{a}{b}$ 、 $\frac{a+b}{c+d}$ のように書き、簡単な数

式や本文中に入れたいときは $a/b$ 、 $(a+b)/(c+d)$ のように1行に書いて下さい。

(4) log, ln, sin, lim, e(exp) などの数式記号および虚数単位、元素記号は**立体**を使って下さい。

(5) ベクトル、テンソル、行列は、**ボールドイタリック体**を使って下さい。

## 6. 著者紹介

会誌に掲載される記事には著者写真を含む著者紹介を付します。紹介記事には原則として以下の項目を含めて下さい。著者1名につき(3)~(6)を合わせて21字×6行以内として下さい。

(1) 氏名（ふりがなを付す）

(2) 所属、所在地、メールアドレス（メールアドレスは記載しないことも可能です）

(3) 略歴：○年○大学○学部卒、○年○会社入社、現在○

(4) 研究・専門テーマ

(5) 所属学会

(6) その他

[記入例はサンプル原稿を参照下さい]

## 7. ご提出していただくものと提出方法

ご提出していただくものは下記の通りです。

- (1) 原稿表紙ファイル（著者名-cover.docまたは著者名-cover.pdf 例：hayase-cover.doc）
- (2) 原稿ファイル（図面を含む）（著者名-text.docまたは著者名-text.pdf 例：hayase-text.doc）
- (3) 各著者写真の画像ファイル（画像ファイル形式は任意、Wordによる原稿ファイルに挿入した場合は不要）

- (4) 電子情報化されていない図面や、著者写真などの情報（ある場合のみ）

(4)以外をメールの添付ファイルとして提出して下さい。原稿ファイルがWord以外の形式の場合は、PDFファイルに変換して下さい。ファイル名の付け方は括弧の中に従って下さい。(4)がある場合は、ご郵送下さい。

学会宛メールに容量制限はありませんが、各ファイルの大きさが2MB以内となるようご協力下さい。lzh形式であればファイルを圧縮しても構いません。

メールが利用できない場合は、CD-R、USBメモリ等に入れて郵送して下さい。ただし、メディアは返送いたしませんのでご注意下さい。

メディア代と郵送料は執筆料としてお支払いします。

また電子出版号への投稿は、Word形式作成された原稿のみで受け付けます。(4)に相当する図面などはないようにして下さい。

## 8. ページ数の換算

執筆に際して、下記に留意の上、ページ数を超過しないようご協力下さい。ただし、電子出版号のページ数の換算はこの限りではありません。

- (1) 表題，原稿受付日の記載に計437字，著者紹介の記載に1

名につき230字を割り当てます。

- (2) 図表は，例えば刷上がりの横寸法がページの半幅（80mm）であるとき，

23字×5行＝115字（横80mm×縦26mm）

23字×10行＝230字（横80mm×縦51mm）

23字×15行＝345字（横80mm×縦77mm）

23字×20行＝460字（横80mm×縦102mm）

23字×25行＝575字（横80mm×縦128mm）

に相当します。他に，図表の表題分として，必ず10mm（2行）分を加えて下さい。罫線は1行分として換算して下さい。

## 9. 送付先・問合せ先

送付先 〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-7

勝美印刷(株)フルードパワーシステム編集事務局

問合せ先 TEL.03-3812-5223

FAX.03-3816-1561

E-mail jfpsjournal@shobix.co.jp

なお，編集事務の迅速をはかるために，著者の手元には原稿のコピーを保存して下さい。

## 10. 原稿確認のためのチェックポイント

原稿確認時のチェックポイントは以下のようになっています。

- (1) 対象とする読者レベル（入門向き・一般向き上級専門向きの別，およびユーザ向き，メーカ向き，研究者向き）に適合しているか。
- (2) 記述が適切か。
  - a. 分量は所定範囲に収まっているか，図表の質・量は適切か。
  - b. 文章，用語は適切か。冗長な記述を廃しているか。
  - c. 構成は適切か。